

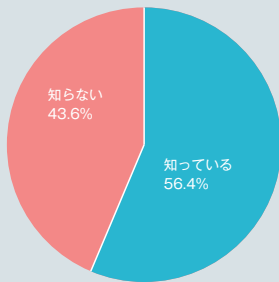


ホスピタルアートに関するアンケート調査結果

ホスピタルアートの注目度は、ここ数年で大きく変わってきています。そこで、独自のアンケートを実施し、ホスピタルアートへの関心度を調査しました。調査対象は、広く一般の方へ向けたもので、会社員や主婦の方にもご協力いただきました。たくさんの生の声を聞くことができましたよ。

Q1

ホスピタルアートを知ってますか？

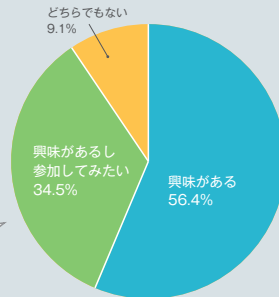


アンケートでは、約 90% の方が「興味がある」「興味があるし参加してみたい」と回答されました。

Q2

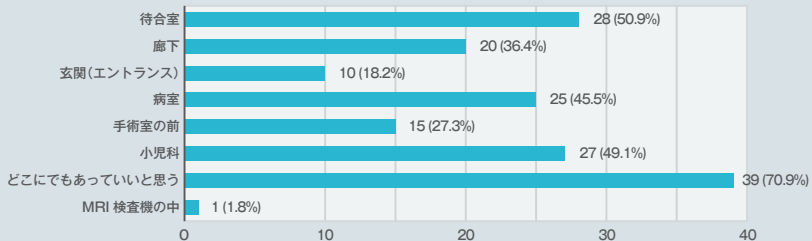
ホスピタルアートは、病院や施設の壁に壁画を描いて、主に患者さんの緊張を和らげる取り組みです。壁画だけではなく、音楽や、お笑いライブを届けたりするのもホスピタルアートに含まれます。

この説明を聞いて、興味を持たれましたか？



Q3

ホスピタルアートが必要だと思う場所はどこだと思いますか？



「患者は不安と暇でしょうがない。月替わりであっていいかも」というご意見も。

Q4

実際にホスピタルアートをみたことがある方はどのような感想を持ちましたか？
また、ホスピタルアートを描いたり、参加したことがある方や、
そのような場所で働いている方へ
アートが施される前と後では、気持ちに変化がありましたか？

- 患者さんを元気にするのは先生だけじゃない！職員も元気になる！
- 自分の想いがそこに残って、誰かに伝わるような気がしました。また参加したいと思いました。
- ホスピタルアートの制作活動に参加して、アートやデザインがより生活に身近にあればいいなと感じるようになりました。



Q5

ホスピタルアートに関しての体験談や感想があれば、何でもご記入ください。

命のやり取りがある、ときに殺伐とした医療現場であるからこそ、アートは必要だと思います。言葉や時空を超えて伝わり、関わる人を癒す力があると感じています。



子どもが病弱で、頻繁に大学病院等に入院、通院するのですが、小児科はどこでもイラストのシールなどに彩られており、付き添いの私もリラックスしていました。常々、大人の病棟にもそのようなものがあれば、沈みがちな気持ちも和らぐのにと感じています。



これからの病院には、欠かせないアートのちからと考えています



施設に対してだけではなく人（医療者、介護士、患者など）が動く專線設計に対してもアートの価値基準があればと思うことがあります。効率優先が過ぎて休む間がなかったら逆に何をしても良いのかわからなくなってくる空間があると感じます。



病室ではないですが、20年ほど前に病院の待合スペースの一角にグランドピアノが置かれているのを見たことがあります。時々そちらで演奏会が行われているようで、とてもいいことだなと思いました。



Q6

ご年齢とご職業をお聞かせください。

